

# 都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所  
社会健康医学研究センター

# 東京都内・主要繁華街 滞留人口モニタリング (1月30日までのデータ分析：要点)

## 【直近の人流の状況】

- 夜間滞留人口：重点措置適用後前後の2週間で大幅に減少。昨年末の高い水準に比べると39.9%低い水準にまで減少。深夜帯の滞留人口については重点措置の適用前の水準に比べ20%程度減少。ただし、先週末から深夜帯滞留人口が増加しはじめている。
- 昼間滞留人口：2週連続で減少（前週比5.9%減）。ただし、先週末から夕方の滞留人口が増加しはじめている。
- 夜間滞留人口・世代別占有率：重点措置適用後、すべての年代で減少している。中高年層の割合が依然として最も高い。
- 繁華街別夜間滞留人口：上野・銀座・渋谷・新宿二丁目・歌舞伎町・新橋で減少。特に歌舞伎町や渋谷の重点措置適用後の夜間滞留人口の減少が顕著。一方、六本木・池袋で増加。

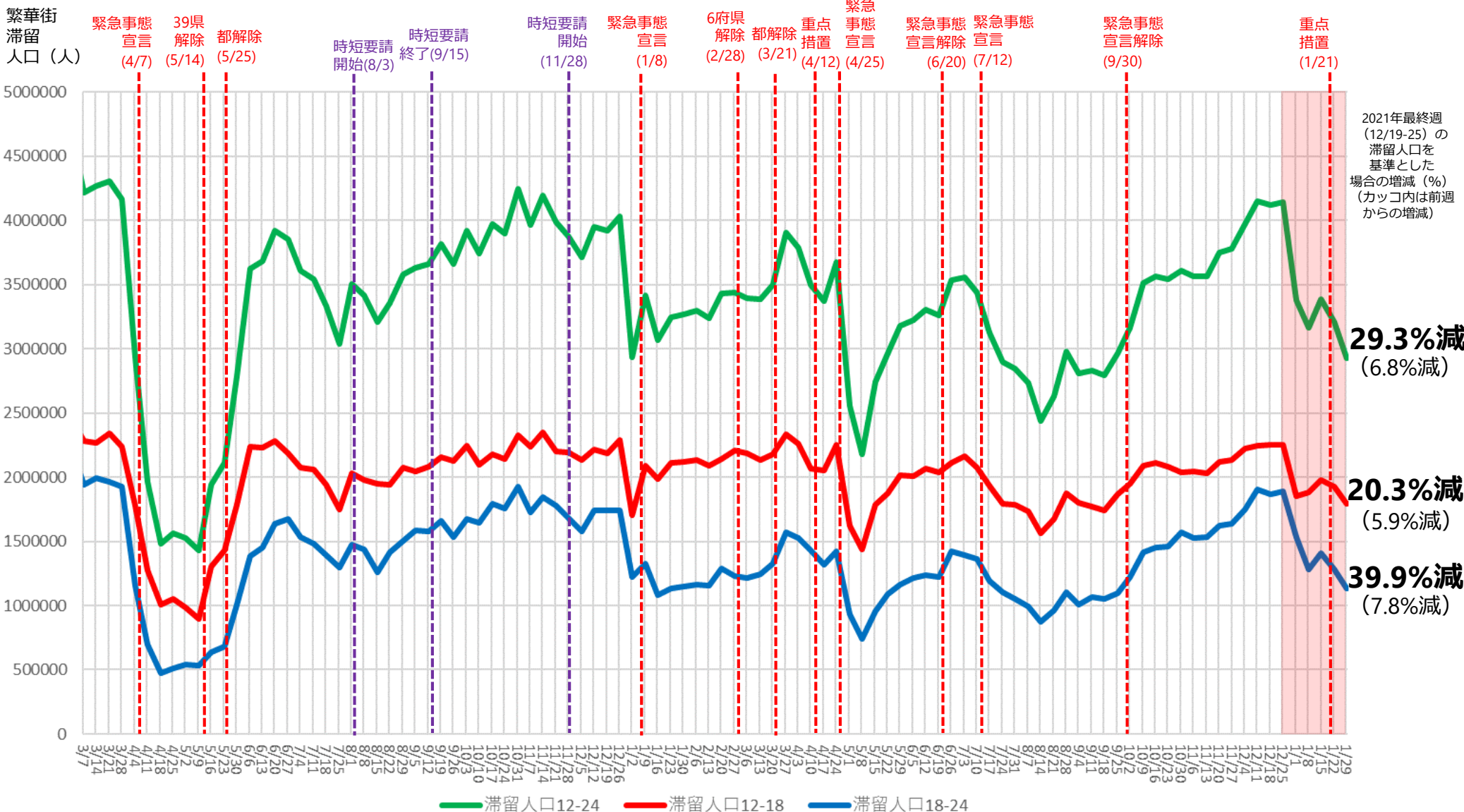
## 【ステイホーム指標】

- 居住地から5キロ圏内、3キロ圏内のステイホーム率は、55.6%（前週比：1.4%増）、46.9%（前週比：1.5%増）。重点措置適用後、ステイホーム率が上昇している。

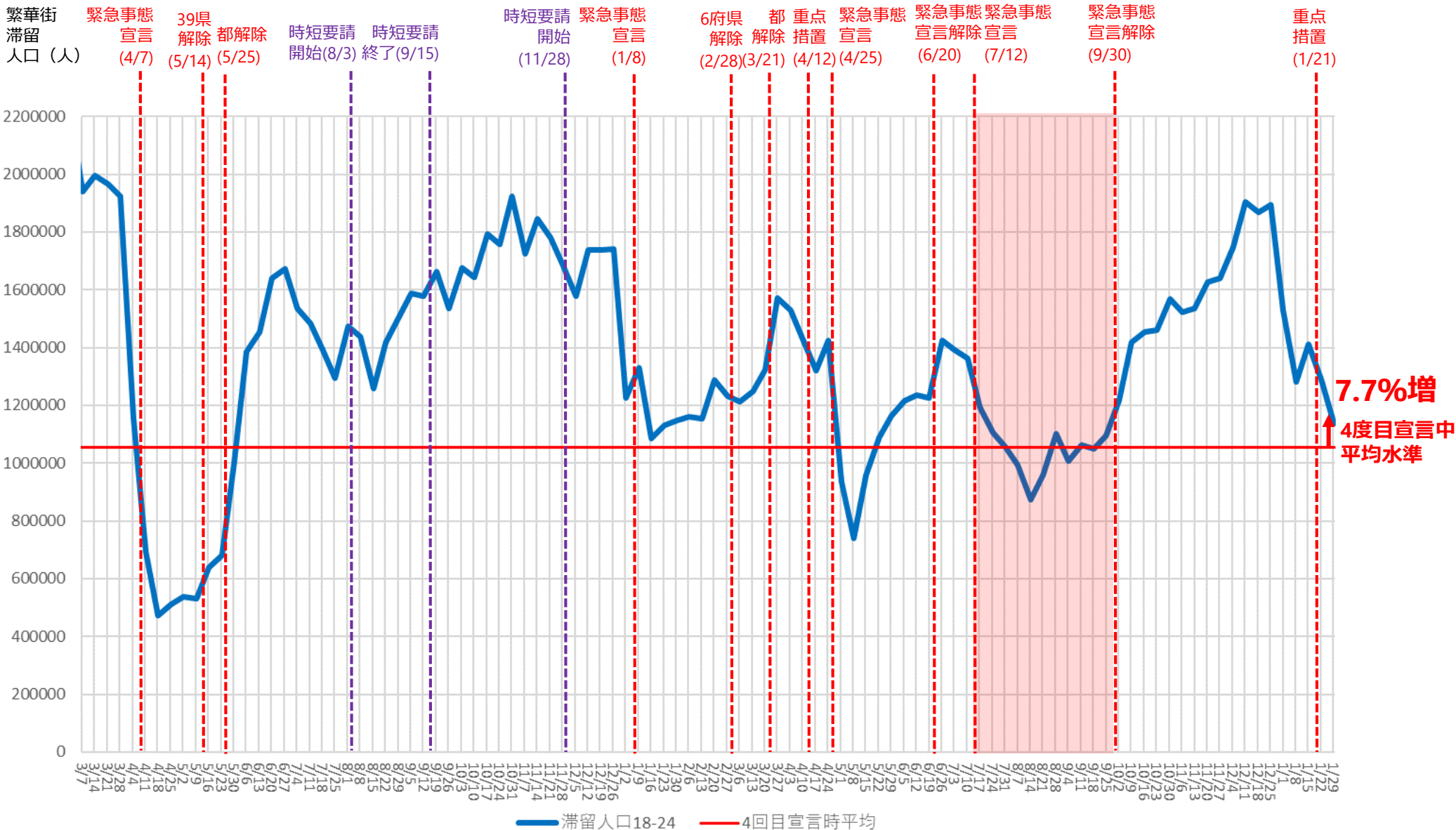
## 【大型ショッピングモール・フードコートの滞留人口】

- 都心部・23区東部のフードコート滞留人口はさらに減少。多摩地区は横ばい。23区西部では微増。

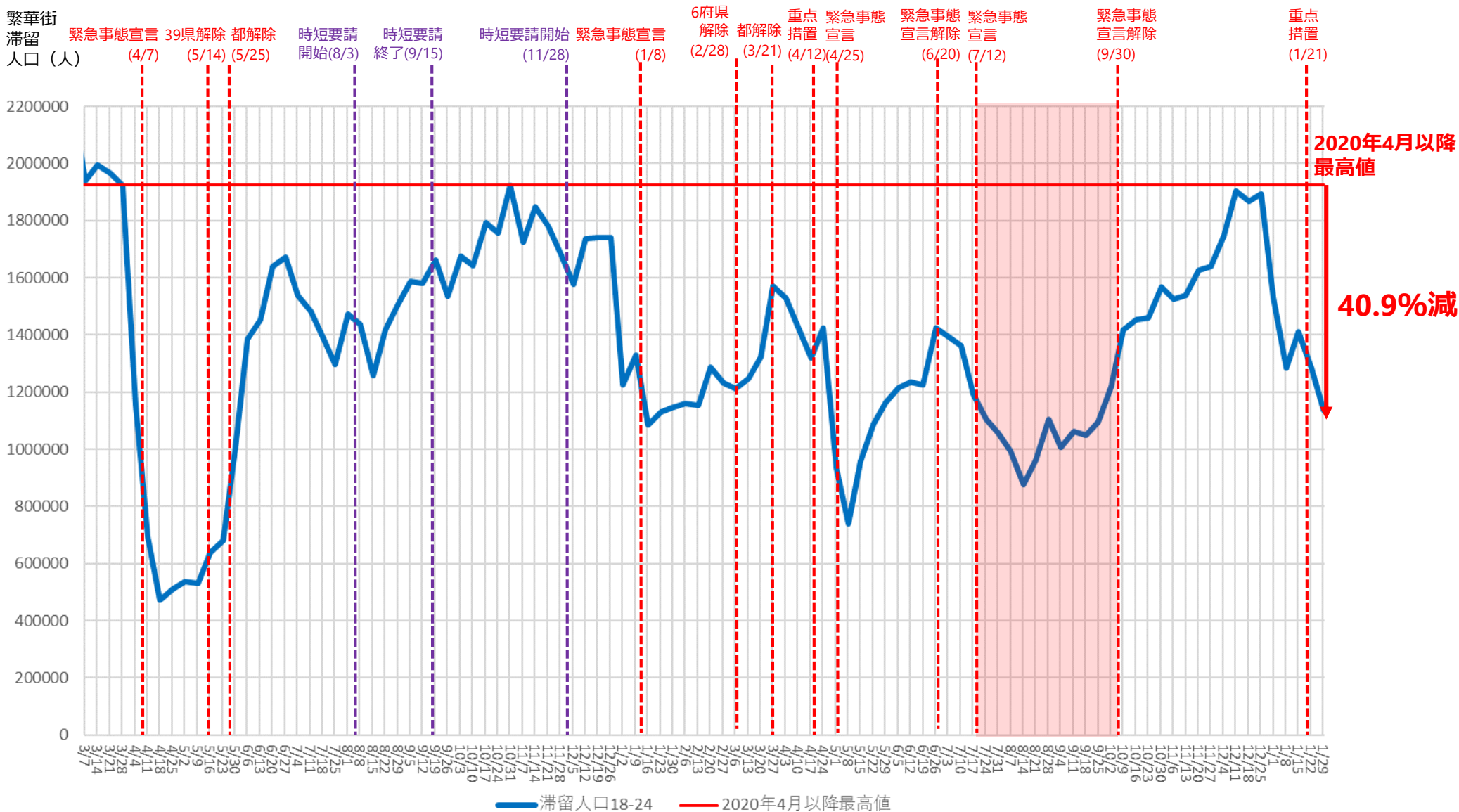
# 時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2022年1月29日）



# 前回宣言期間中の夜間滞留人口（18-24時）平均水準との比較 （2020年3月1日～2022年1月29日）

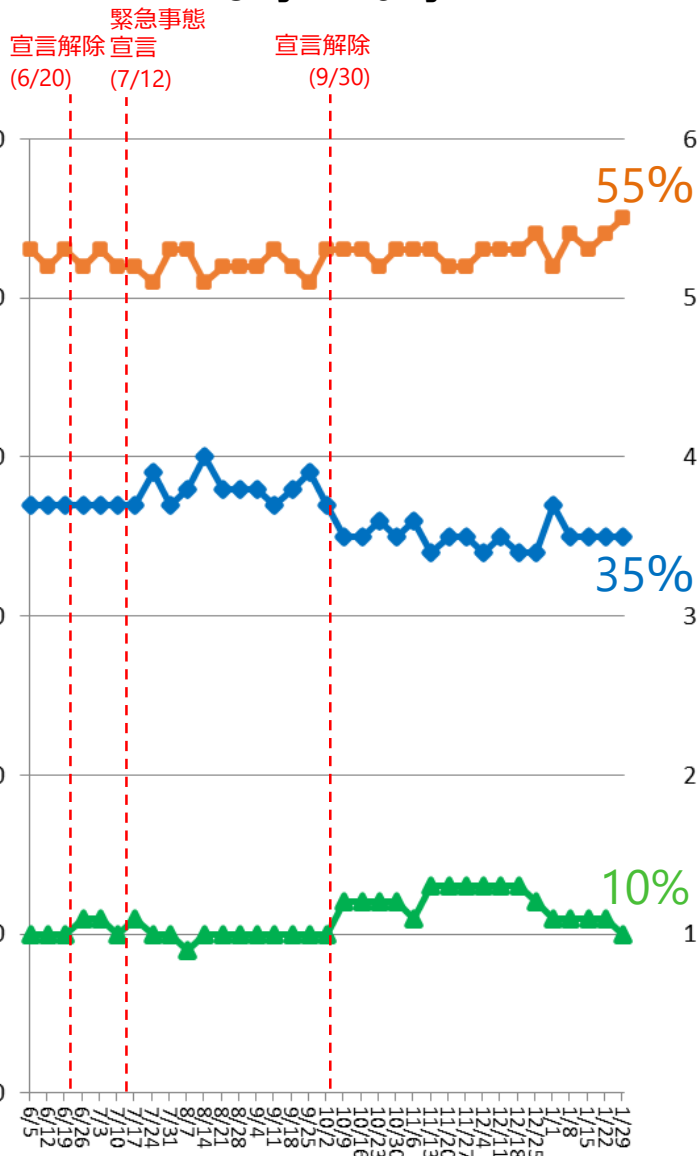


# 前回宣言期間中の夜間滞留人口（18-24時）平均水準との比較 （2020年3月1日～2022年1月29日）

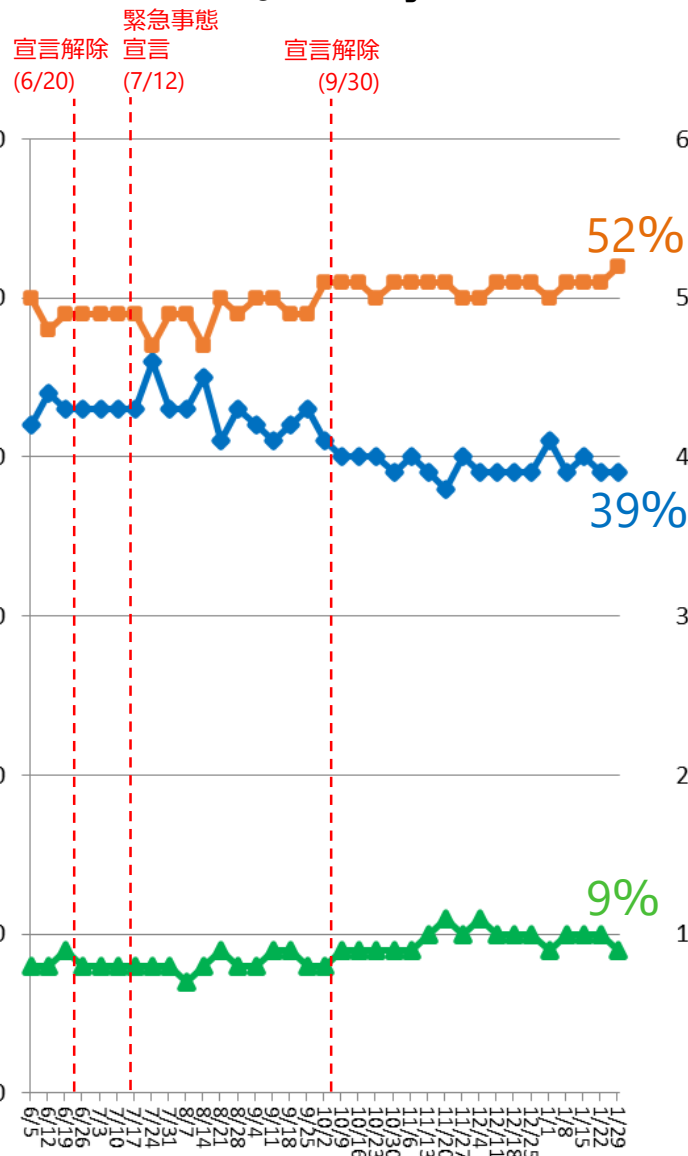


# 都内主要繁華街における夜間滞留人口の年代別占有率（2021年6月1日～2022年1月29日）

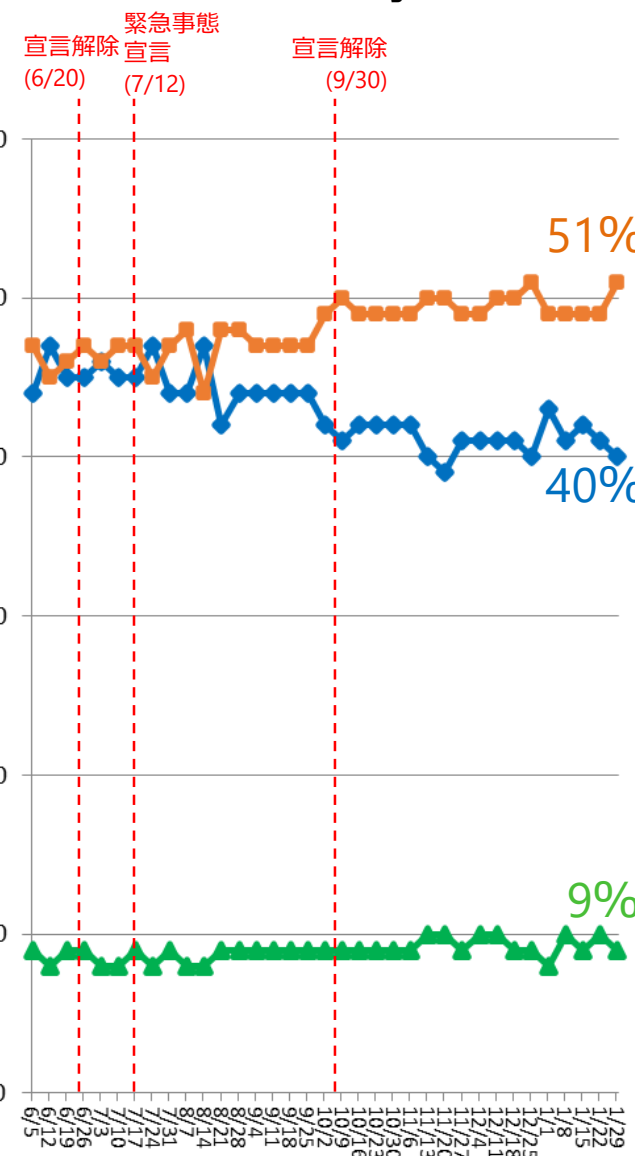
## 18時～20時



## 20～22時



## 22～24時



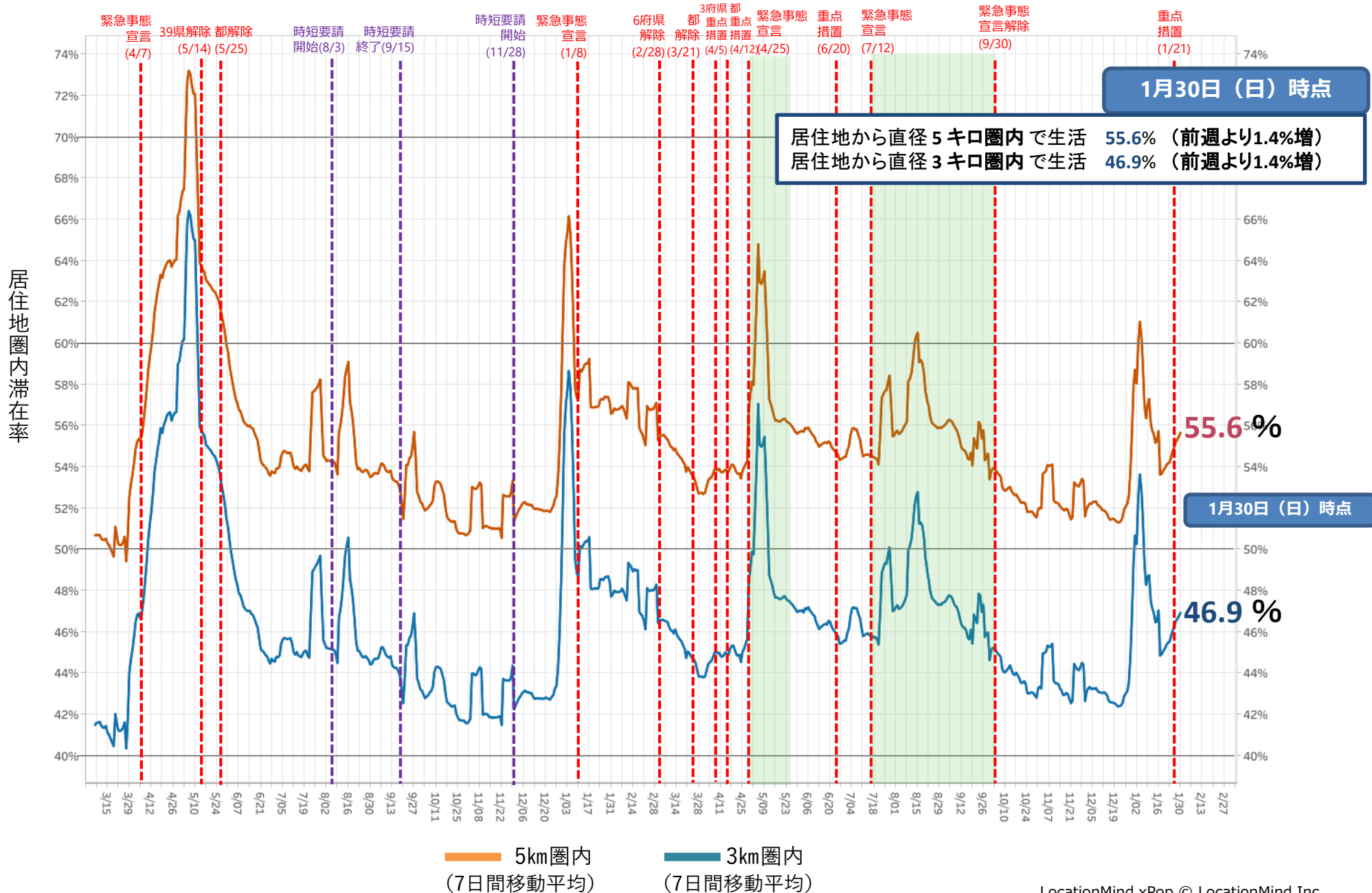
# 年齢別夜間滞留人口推移（22-24時・7日間移動平均：2021年3月7日～2022年1月29日）

対象繁華街：上野・銀座・六本木・渋谷  
新宿二丁目・歌舞伎町・池袋

繁華街  
夜間滞留  
人口（人）



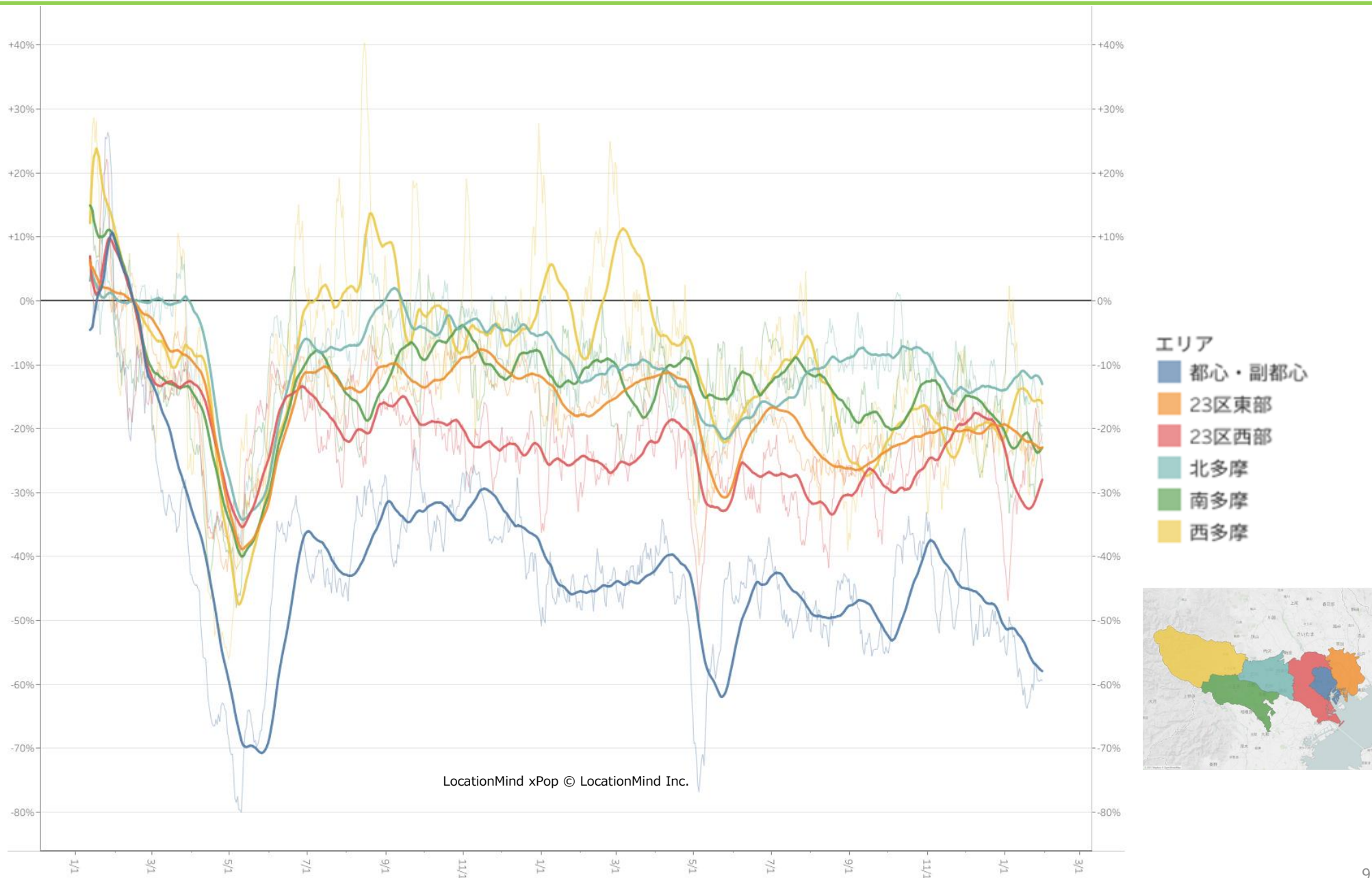
# ステイホーム指標（2020年3月1日～2022年1月30日）：東京都内全域





# 都内大型ショッピングセンター内のフードコート滞留人口推移

地域別：2020.1.12-2022.1.30：10-19時（モニタリング対象28施設）



# ハイリスクな時間帯の繁華街滞留人口を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**主要繁華街に遊興目的で**

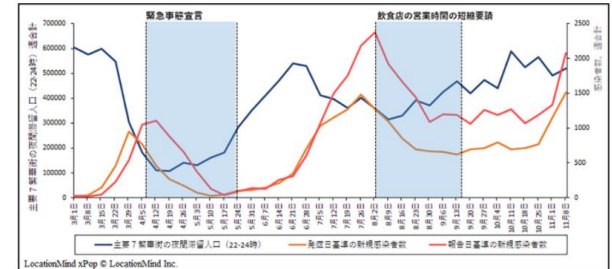
**移動・滞留したデータを抽出 ※**

- **ハイリスクな時間帯の滞留人口量を**  
**1時間単位で推定(500mメッシュ単位)**

- **LocationMind ⇒ 都医学研**

- **夜間滞留人口データとその後の**

**新規感染者数、実効再生産数との関連が報告されている ※※**



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。

※※ Nakanishi M, Shibasaki R, Yamasaki S, Miyazawa S, Usami S, Nishiura H, Nishida A. On-site Dining in Tokyo During the COVID-19 Pandemic: Time Series Analysis Using Mobile Phone Location Data. *JMIR mHealth and uHealth*, 2021